

独自性と同調性：愛情の結びつきと意味づけ
——現代中国の若者の性、恋愛、結婚に対する理解

リショウケン（新潟大学）

東アジア地域では、20世紀後半に経済の高速成長と共に、日本、韓国、中国などの国では次々と晩婚現象が現れた。1975年以降の経済成長の減速に伴い、日本はさらに晩婚・非婚化の傾向が強まった。中国は今もなお皆婚の傾向があるが、晩婚化が進んでいる。山田昌弘（2016）は「結婚の壁」を乗り越えたい場合、合理的要素（経済的な側面など）と非合理的要素（感情的な側面など）の両方からアプローチする必要があると指摘した。非合理的要素の検討には、特に定性的研究が必要である。本報告は主体構築の視点から、恋愛や結婚に関するそれぞれの個人のメカニズムを探求することを目指している。現代の男女関係の動向を把握するため、そして晩婚化や未婚化の原因を解明するためには、全般的に一人ひとりの内面に深く入り込んで、彼らの人生経歴に影響を与える要因を探らなければならない。彼らが置かれている社会的な位置や個々のライフコースを理解することで、現在の中国社会における男女動向の激変の原因を解明する。本報告では、解釈主義のパラダイムを用いて、質的研究のインタビュー方法を通じ、インタビュー対象者の主体的な視点から、現代中国社会における性、恋愛、結婚に関連する動向を明らかにする。

報告者は2023年7月から10月までの間、恋愛、結婚、性、愛をめぐるテーマで25人の被験者に対して半構造化インタビューを行った。調査地点は北京市、上海市である。被験者全体の年齢構成は20歳から40歳までの広がりがあり、既婚者も未婚者も、異性愛者も同性愛者も含まれていた。各インタビューは2〜3時間がかかり、質問は恋愛や結婚に限らず、自己認識、生活習慣、人生目標など多面的な議論も含まれた。

本報告では、現代社会における人々は、個性を重視し、多様性と自由主義を追求する一方で、恋愛、結婚、性に対する理解に関しては同調性が見られると考える。そして、この同調性こそが、晩婚化や少子化などの社会現象の重要な契機となっている。中国の若者にとって、恋愛から結婚へのプロセスには、ほぼ標準的な解答が存在し、この決められたプロセスに従わないと、ほとんどの人が結婚という状態に到達しにくいと思う。この標準化された答えは完全に統一されているわけではないが、その中の重要な一つはロマンチック・ラブを追求するということである。要するに、一方で、差異性を重視する個体にとっては、もともと結婚は必需品ではない。もう一方で、通常結婚に追求する人にとって、消費主義などの原因で結婚よりも大切なものが見つかったため、通常追求したいものにおける結婚の優先順位が下がった。結婚に踏み込むためには、合理的要素を満たすだけでは不十分であり、非合理的要素も満たす必要がある。これは結婚マッチングにおいては簡単なことではない。その中で、大半の人は人々が通常追求するものを求めながら個性を追求している。彼らは自分の感情が外部に囚われたくないと思っているにも関わらず、通常追求という規範に縛られてしまう。最終的に、この規範に縛られる人も縛られていない人も、結婚しようとしなないという、比較的に一致した状態が現れることになった。

[文献]

山田昌弘（2016）「家族社会学、感情社会学の視点からのコメント」『理論と方法』 Vol. 31, No. 1, pp. 94-98.

キーワード：恋愛、結婚、セックス